

北海道園芸研究談話会会員各位

幹事長 荒木 肇

研究発表会における適切な課題名表現について

12月に開催される研究発表会の課題名（発表題目）および報告者名（著者名）は、11月に発表申込みされた「課題名」と「報告者名（著者名）」を、発表会当日および会報作成まで同じものを使用します。途中での変更はできませんので、発表申込時の課題名設定には細心の注意を払っていただきたいと思います。

適切な課題名設定には、「研究事項・内容が具体的にわかる」「修飾と被修飾の関係が適切」等が重要です。研究発表要領や会報原稿作成要領をご一読頂くと共に、以下に課題名の例を列記しますので参考にさせていただけると幸いです。

「ヤーコンの塊根収量に及ぼす種苗の定植時期の影響」

（ヤーコン種苗の定植時期が塊根収量に及ぼす影響 もあるでしょう）

「定植時期が遅れた寒玉キャベツの収量と品質」

「異なる pH 圃場におけるキャベツの発育」

（圃場調査で pH に差異があることが判明し、その結果キャベツの発育に影響があった場合。石灰等により pH 処理をした場合は pH の影響とした方が適切です）

「ネギ属の辛味成分合成に影響（関与）する酵素の単離」

「道北地域におけるトマト夏秋とり作型導入の可能性」

「トマトの矮性に関する遺伝特性と育種利用」

「アスパラガス斑点病の発生と品種間差異」

※ “・・・について” という課題名はあまり使用しません。

“・・・の検討” の表現：一般論として、ある要因について比較検討することが多いので、『検討』より適切表現があればそちらにされたい（効果・影響・収量増大・品質改善・・・）。